

# 問題解説 Forensic

平成30年11月10日 仙台CTF推進プロジェクト 五十嵐 良一



# Forensic01

検体を解析し、ダウンロード元URLを特定してください。

#### [検知したファイル]

- フォルダ名:
  - C:\(\text{Users}\)\(\text{user01}\)\(\text{AppData}\)\(\text{Local}\)\(\text{Mozilla}\)\(\text{Firefox}\)\(\text{Profiles}\)\(\text{o5j56hgo.default}\)\(\text{Vache2}\)\(\text{Profiles}\)\(\text{o5j56hgo.default}\)\(\text{Vache2}\)\(\text{Profiles}\)\(\text{o5j56hgo.default}\)\(\text{Vache2}\)\(\text{Profiles}\)\(\text{o5j56hgo.default}\)\(\text{Vache2}\)\(\text{Profiles}\)\(\text{o5j56hgo.default}\)\(\text{Vache2}\)\(\text{Vache2}\)\(\text{Profiles}\)\(\text{o5j56hgo.default}\)\(\text{Vache2}\)\(\
- ファイル名:
  - E0274DBC37EC05DA0813E93E7A1C3260C93BE6DE

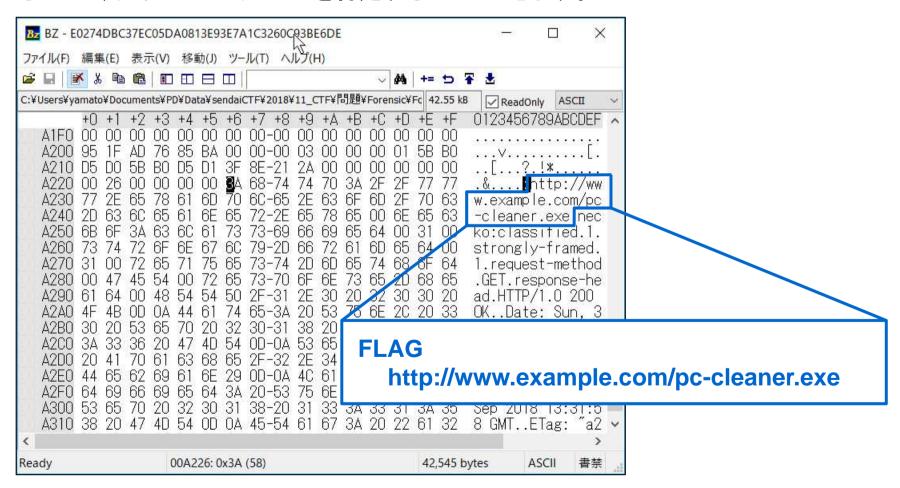
#### [フラグ]

検体「E0274DBC37EC05DA0813E93E7A1C3260C93BE6DE」のダウンロード 元のURL(半角、小文字)

例:http://www.sendai-ctf.org/abc.exe

#### 解説

 Firefoxは、一時ファイル(キャッシュ)としてダウンロードしたファイルの末尾に、HTTP リクエスト/レスポンスの情報を追記するため、バイナリエディタで問題ファイルを確認す ることで、ダウンロード元URLを特定することができます。





# Forensic02

検知したファイルのダウンロード元URLは、有名なフリーソフト「PC-Cleaner」(注記:架空のフリーソフト)の公式サイトのようです。「PC-Cleaner」の公式サイトを確認したところ、不正アクセス被害に遭い、マルウェアが混入されたプログラム「PC-Cleaner.exe」が配布されたというお詫び文書が掲載されていました。

社員(以下user01という)に確認したところ、ダウンロードした「PC-Cleaner.exe」を実行したか記憶が定かではないが、もしも実行していたとしても、すぐに削除したはずだと証言しています。あなたは、user01のパソコンはマルウェアに感染している可能性が高いと考え、パソコンをネットワークから隔離したうえで、いくつかのファイルをエビデンスとして証拠保全しました。

user01のパソコンから証拠保全したエビデンスを解析し、「PC-Cleaner.exe」が実行された日時を特定してください。

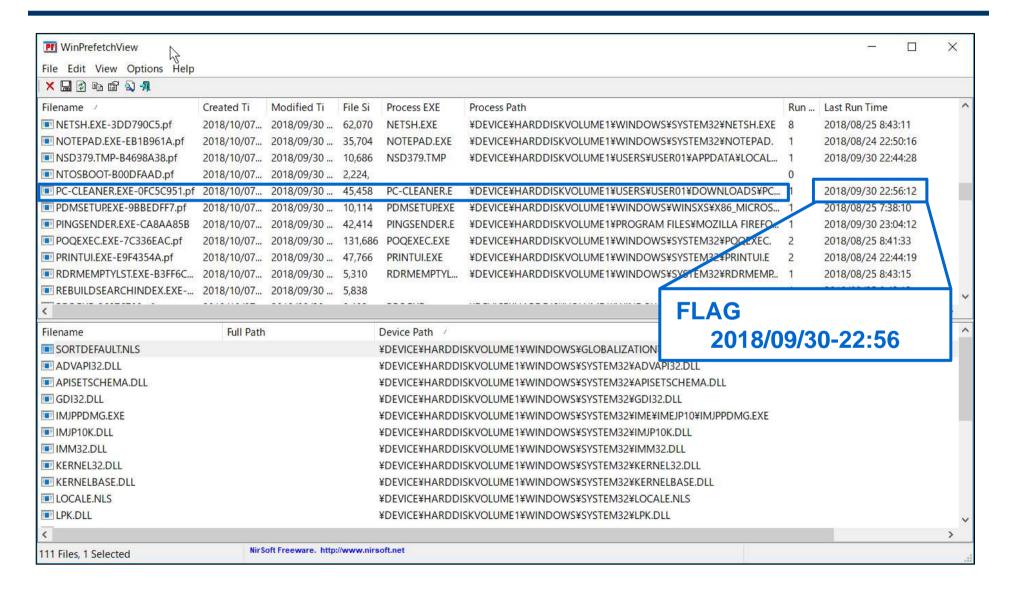
#### [フラグ]

フリーソフト「PC-Cleaner.exe」の実行日時(YYYY/MM/DD-hh:mm)(半角)例:2018/11/10-23:59

### 解説(1)

- Windowsには、アプリケーションの起動を高速化するための「Prefetch」と呼ばれる機能が搭載されており、アプリケーションが起動されると、「C:¥Windows¥Prefetch」に、Prefetchファイル(拡張子「.pf」で、アプリケーション名を含むファイル名)が作成されます。
- Prefetchファイルには、アプリケーションのフルパス、最終起動日時などが記録されているため、調査用ツール「WinPrefetchView」などを利用し、「PC-Cleaner.exe」の最終起動日時を確認することができます。

#### 解説(2)





# Forensic03

調査により、社員(以下、user01という)のパソコンは、マルウェアが混入したフリーソフトを実行していたことが確認されました。

フリーソフト「PC-Cleaner」(注記:架空のフリーソフト)に混入したマルウェアについて、セキュリティ研究者のブログなどで情報収集したところ、ダウンローダーという種類のマルウェアであり、他のマルウェア(以下、マルウェアBという)をダウンロードする機能を有しているようです。

マルウェアBは、実行されると、パソコンのあるフォルダに自身をコピーするとともに、パソコンのログオン時に自動的に実行されるようレジストリを改変するようです。

あなたは、user01のパソコンに潜伏しているマルウェアBの検体をウイルス対策ソフトの 開発元に送付し、パターンファイルの作成を依頼する必要があると考えました。

user01のパソコンから証拠保全したエビデンスを解析し、マルウェアBのフルパスを特定してください。

#### [フラグ]

マルウェアBのフルパス(半角)例: C:\(\frac{4}{3}\)

#### 解説(1)

 \$MFTを「MFTECmd」および「mactime」でタイムライン解析し、フリーソフト 「PC-Cleaner」が実行された日時で2018/09/30-22:56」の直後に、不審なファイルが 作成されていないか確認します。

```
C:\footnote{\text{Work}}\footnote{\text{mftecmd}} -f \footnote{\text{MFT}} --body . --bdl C

MFTECmd version 0.3.0.0

Author: Eric Zimmerman (saericzimmerman@gmail.com)
https://github.com/EricZimmerman/MFTECmd

Command line: -f \footnote{\text{MFT}} --body . --bdl C

Warning: Administrator privileges not found!

Processed \footnote{\text{MFT}} in 3.9603 seconds

Bodyfile output will be saved to '.\footnote{\text{20181007233902_MFTECmd_Output.body'}}

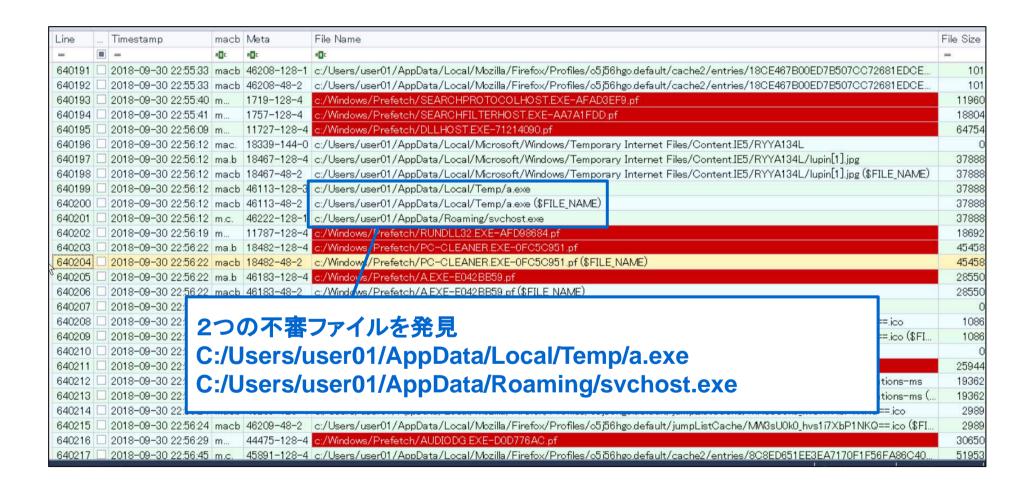
C:\footnote{\text{work}} mactime -z Japan -b 20181007233902_MFTECmd_Output.body -m -d > timeline_mft.txt

C:\footnote{\text{work}}
```

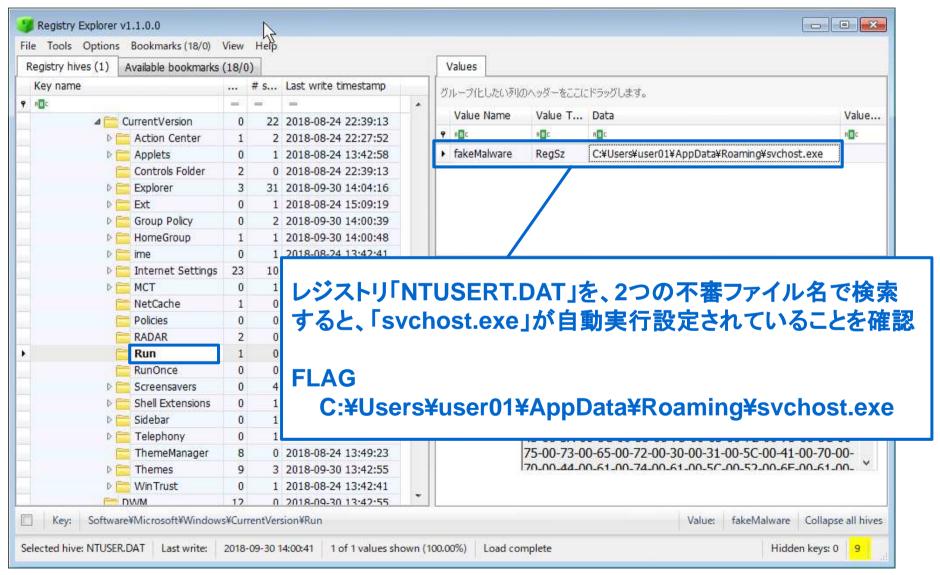
MFTECmd mactime

https://github.com/EricZimmerman/MFTECmd/releases https://www.sleuthkit.org/ (The Sleuth Kitに同梱)

#### 解説(2)



#### 解説(3)





感染していたマルウェアの挙動について情報収集したところ、以下のようなキーロガー機能を有していることが判明しました。

#### [キーロガー機能の動作]

- (1) 利用者が入力した、オンラインバンキング等のユーザーIDとパスワードを「C:¥Users¥【ユーザー名】¥AppData¥keylogger.txt」に記録する。
- (2)「keylogger.txt」の内容を、C2サーバに送信する。
- (3)「keylogger.txt」の内容を、Oバイトの文字列で上書き保存することにより消去する。

感染したパソコンを確認したところ「keylogger.txt」が発見されたため、何らかのユーザーIDとパスワードが情報流出した可能性があると考えられます。

あなたは、感染したパソコンディスクイメージを解析し、消去されたデータ(=情報流出したデータ)の復元を試みることにしました。

感染したパソコンの模擬ディスクイメージを解析し、情報流出した「パスワード」を特定してください。

#### [フラグ]

「keylogger.txt」に記録されていたパスワードと思われる文字列(半角)例:1qaz2wsx3edc

#### 解説(1)

- 問題ファイルのディスクイメージのファイルシステムは、NTFSです。
- NTFSは、ファイル名やタイムスタンプなどの属性情報「\$MFT」のFILEレコード記録します。また、ファイルに記録されるデータのサイズが小さい場合、FILEレコードにデータが保存されます。
- また、FILEレコードに保存されたデータは、元データよりも小さなデータで上書き保存された場合、FILEレコードに古いデータの残骸が残るという特性があります。
- 従って、ディスクイメージをバイナリエディタなどで開き、ファイルシステムを目視確認することで、「keylogger.txt」の古いデータの残骸を確認することができます。

#### 解説(2)

